

(概要版)

伝統的な言語文化に自ら親しむ生徒の育成に向けた 中学校国語科指導の工夫

—短歌と生徒の言語生活を結び付ける アンソロジーづくりを取り入れて—

長期研修員 宮崎 俊一

研究の背景

国際社会で活躍する日本人の育成を図る

新学習指導要領…伝統や文化に関する教育の充実



中学校国語科 …古典に一層親しむ態度の育成の重視

伝統的な文化を理解・継承し、新しい文化を創造・発展させる

研究の構想

伝統的な言語文化に自ら親しむ生徒

古典を身近に感じ、授業の学びを基に、もっと知りたい、もっとよさを感じたいと思い、自ら古典の作品を楽しもうとする生徒

アンソロジーづくりを取り入れた短歌の指導のステップ

ステップ1(導入の過程)

古典の短歌の新たなおもしろさに気づき、学習に意欲をもつ。

古典の短歌と身近にある他の詩歌や文章などを読み比べて考える活動

ステップ2(追究の過程)

作品への理解が深まり、古典の短歌を身近に感じる。

テーマを決め、古典の短歌と好きな詩歌や文章などを組み合わせてアンソロジーをつくる活動

ステップ3(まとめの過程)

古典の短歌の楽しみ方が分かり、親しんでいこうとする。

授業で学んだことを生かし、自分なりの古典の短歌の楽しみ方を見付ける活動

指導上の課題

- ・一層古典に親しむための授業はどうあるべきかイメージできない。
- ・小学校の学びと関連付けた効果的な指導は行ってこなかった。

生徒の実態

- ・小学校でも古典の作品に触れる。
- ・古典を好きではない生徒もいる。
- ・古典に親しむ機会が少ない。
- ・身近な内容の作品には親しみがもてる。

ステップ1（導入の過程）

古典の短歌と身近にある他の詩歌や文章などを読み比べて考える活動

活動の流れと生徒の反応

①三つの作品を読み、共通点を見付ける

生徒
「仕事に関係がある」

②「仕事」に対する意識の違いを読む

生徒
「天智天皇の歌の中の働く人は、残業しているサラリーマンみたいでつらそうだ」

流行歌の中の〇しと夜中の田んぼを見張っている人を比べて考えることで、「サラリーマンみたい」と答えています。

古典の短歌と身近な他の詩歌や文章を結び付けたことを参考に、自分でやってみようとしています。

③教師がつくった見本のアンソロジーを読み、アンソロジーづくりを通して短歌の学習をすることを伝える

生徒
「春の短歌と詩を集めて、アンソロジーにしてみました」

〇ころよき疲れなるかな
息もつかず
仕事をしたる後のこの疲れ
石川啄木

〇秋の田のかりほの庵の苫をあらみ
わが衣手は露にぬれつつ
天智天皇

〇（現代の〇し）を歌った流行歌）

古典の短歌と好きなユーザジャンの歌詞を組み合わせてみたい。



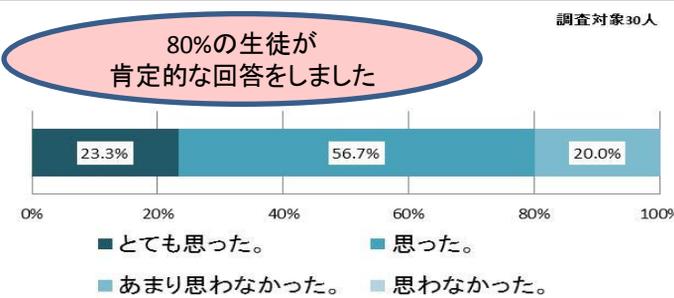
古典の短歌の中にある昔の人の気持ちに触れてみたい。



恋をテーマにしてアンソロジーをつくってみたい。



「古典の短歌をアンソロジーにする学習をやってみようと思いましたか」



見本で示したアンソロジー（A4 二つ折り）

関連付けの仕方が分かるタイトルを書きます。

働く人のアンソロジー

読む人に、思いを一言で伝えます。

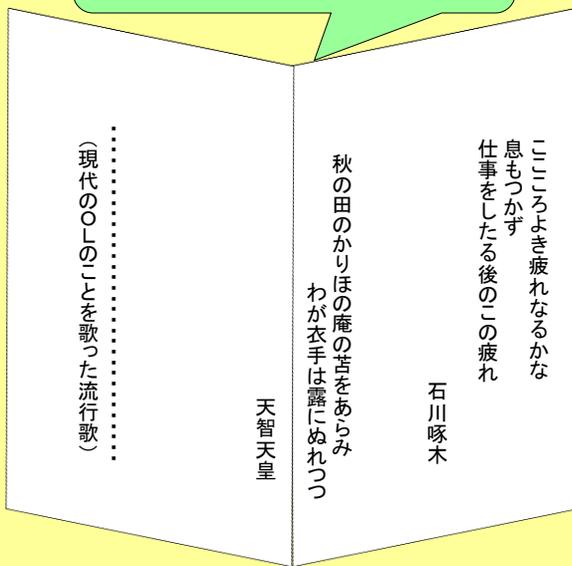
一言メッセージ

みなさん、お疲れ様です

生徒自身が好きな詩歌や文章などの言葉と読み比べて考えるので、自分の見方で古典の短歌を主体的に読む学習になります。

小学校で学習した短歌などと自分の好きな詩歌や文章を組み合わせ載せます。

アンソロジーの编者として、どのように関連付けをしたか、どのように感じたかを書きます。



编者より
天智天皇の作品は、せつかく実った秋の田を荒らされないように、夜露に濡れながら一晩中見張っているところです。仕事に対する責任感を感じます。石川啄木さんの短歌は、仕事に対する充実感を感じます。わたしも、家の庭の草むしりをやったあと、体は疲れたけど、なんだかとても気持ちよかったですの思い出します。（中略）三つとも「仕事」で関係がありますが、仕事に対する意識の違いがおもしろいです。

アンソロジーとは、時代別、主題別など、一定の基準で選ばれた詩歌集、文芸作品集のことです。

小学校のときとは違う見方で作品を読む楽しさに気づき、アンソロジーづくりをすることに意欲をもつことができました。

ステップ2（追究の過程）

テーマを決め、古典の短歌に好きな詩歌や文章などを組み合わせてアンソロジーをつくる活動

活動の流れ

- ①教師が示した六首の短歌から、アンソロジーの中心にする作品を選び、およその内容を読む
- ②短歌に組み合わせる言葉を自分の好きな詩歌や文章などから二つ探す
- ③それぞれの内容の共通点や相違点などをワークシートに書く
- ④ワークシートを基に作者の心情や情景について想像したことを「编者より」に書き、アンソロジーをつくる
- ⑤お互いのアンソロジーを紹介し合う

古典の短歌と自分の好きな言葉を読み比べて生徒が書いたワークシート

比べる言葉(その一) ※亡き母を思う流行歌の歌詞の一部	共通点・相違点	テーマの短歌 たまゆらの露も涙もとどまらず 亡き人恋ふる宿の秋風	共通点・相違点	比べる言葉(その二) ※別れた恋人を思う流行歌の歌詞の一部
	・どちらとも同じ「亡き母を思う」。 ・どちらも亡き人を近くに感じているのでは？		・(その一の歌詞)では、その人をなくしてから大切に気が付いたが、(テーマの短歌)は、もともとそう思っていた。 ・(テーマの短歌)は、もう一生逢うことのできない人への思い。(その一の歌詞)は、遠く離れた人への思いで、逢おうと思えば逢える？	

作者の心情を自分の好きな歌の歌詞の中に見付け、想像を広げています。

内容の共通点や相違点を見付けることで、古典の短歌に込められた思いを考えています。

生徒が書いたアンソロジーの「编者より」

生徒たちが書いたアンソロジーの「编者より」から抜粋

编者より
 今、逢えない人を思う気持ち」をテーマに、アンソロジーをつくって
 みました。
 藤原定家さんの作品は、母を亡くした秋に、母が住んでいた宿を訪
 れて読んだ作品だといわれています。そして、○○○の「△△△△」とい
 う曲の歌詞は、定家さんの想いとほとんど一致していると思えました。
 母親の住んでいた宿に、自ら足を運んでいる姿から、「△△△△」の
 歌詞のように、「母親を思い描き、声や温もり、優しい微笑みを思い出し
 ているのではないかと考えたからです。
 一方、□□□の「◇◇◇◇」の歌詞は、前に紹介した二つの作品とは
 違って、「なくしてから気が付いた自分の正直な気持ち」を感じます。ま
 た、「切ない」という言葉も、二つの作品とは大きな違いだと感じまし
 た。
 みなさんも、たくさんのお出会いと別れの中で、忘れられない思い出と
 なった時間や、そんな時を共に過ごした人はいると思います。自分の
 まわりの大切な人たちが思い出になる前に、気が付いて大切にしてい
 たいと思いました。

歌の歌詞は、誰よりも先に相
 手に自分の気持ちを伝えよう
 という積極的な感じでした。古典
 の短歌は、相手に気付いてほし
 いけれど、自分の中に秘めてい
 ます。恋する人の気持ちの違い
 がおもしろいです。

短歌の中は、水とわらびで春
 を表現しています。草野心平さ
 んの詩は、春を水、風、カエル
 におい、花、空で表現していま
 す。比べてみて、短歌の春の情
 景も、同じようににおいや空や
 風も想像することができまし
 た。

昔も今も片思いをしている女
 性の気持ちは同じだと思いまし
 た。自分の好きな歌の歌詞と同
 じように、古典の短歌にも、ま
 さに、自分の気持ちが歌われて
 いるような気がして、共感でき
 ました。



生徒たちが書いたアンソロジーの「编者より」の内容から

共通点や相違点について書けた生徒 96.7% (30人中29人)
 作者の思いについて書けた生徒 70.0% (30人中21人)

自分の好きな詩歌や文章との共通点や相違点を考えることで、ほとんどの生徒が、古典の短歌の作者の心情や情景などについて想像したことを書きました。

作品と自分のことを関連付けて、感じた思いを友達に伝えています。

自分の好きな歌の歌詞に込められた思いを古典の短歌にあてはめて考えています。

古典の短歌に込められた作者の心情や情景をより豊かに想像するなど理解を深め、古典の短歌を身近に感じることができました。

ステップ3（まとめの過程）

授業で学んだことを生かし、自分なりの古典の短歌の楽しみ方を見付ける活動

活動の流れと生徒の反応

- ①教師の例示を参考に、各自で短歌の楽しみ方を考える
- ②小グループでアイデアを出し合い、全体に発表する

生徒

「短歌を載せたしおりをつくりたい」
「短歌を載せたカレンダーをつくりたい」

- ③発表されたアイデアを参考にし、いつ、どうやって楽しむか計画を立てる

話し合いのアイデアを生かした作品

わが恋を 知るくらめや しきたんの
枕のみこそ 知らば知るくらめ

藤原定家 たまゆらの露も涙もどまりが
亡き人恋ふる 宿の松風

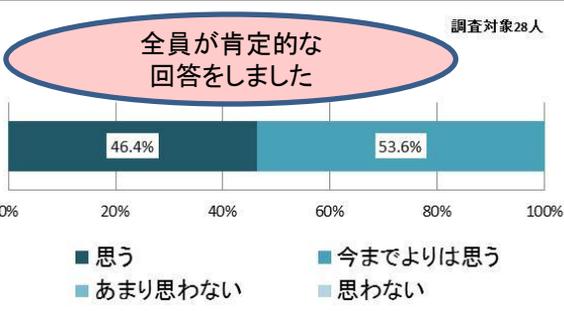


短歌とイラストや写真を組み合わせて壁に飾りたい。

古典の短歌を書いたブックカバーをつくり、国語の教科書に使いたい。

好きな短歌と流行歌の歌詞をポップカードにして部屋に飾りたい。

「今回の学習を通して、自分なりの方法で昔の短歌に親しみたいと思うようになりましたか。」



自分なりの短歌の楽しみ方が見付かり、これからも、短歌に親しんでいこうとすることができました。

成果と課題

- 成果**
- 導入の過程において、どの生徒にも共通点が見付けやすい例示となるように、読み比べる作品を吟味することで、新たなおもしろさに気付かせ、学習意欲をもたせることができた。
 - 追究の過程において、生徒の好きな詩歌や文章の中からキーワードを示すことにより、どの生徒も共通点や相違点を見付けることができ、作者の心情や情景などをより豊かに想像するなど理解が深まり、古典の短歌を身近に感じる事ができた。
 - まとめの過程において、古典の短歌をカレンダーやしおりなど、身近に置いて使える形にしたことで、生徒自身がこれからも古典の短歌に親しんで、いこうとすることにつながった。

- 課題**
- アンソロジーとして組み合わせる自分の好きな詩歌や文章を見付けるのに時間がかかる生徒もいた。事前に生徒たちの言語生活の実態をより詳しく把握し、生徒が古典の短歌に組み合わせやすい資料を十分に準備する必要である。
 - 今後も、継続して古典の作品に親しんでいけるように、古典に関連した書物やwebページを紹介するなど、古典の楽しみ方に関する情報を生徒の身近に用意しておく必要がある。

問い合わせ先 群馬県総合教育センター
担当係：教育情報推進係 0270-26-9215（直通）